

【ハイチ・コレラ救援】

検査部臨床検査技師兼国際医療救援部 喜田たろう

大地震に襲われたカリブ海の島国ハイチで、コレラが大流行しました。同国保健省の発表によると、昨年クリスマス頃をピークに、総感染者数は 378,000 人、総死者数は 5,592 人にのぼっています。

日赤は、ハイチ赤十字社と国際赤十字の要請に対応して、昨年 11 月から今年 6 月末まで、延べ 31 名からなる医療チームを派遣して、コレラ治療施設の運営などを行い、当院からは私を含めて 2 名の要員が派遣されました。

過去にコレラの流行を経験したことがなかったハイチの人々にとって、コレラはとても恐ろしく謎めいた病気でした。医師や看護師ですら予防法や治療法等の適切な知識がなく、流行の発生からひと月後の 11 月中旬には、ハイチ全土に広まりました。また住民の正しい知識の不足から生じたコレラに対する行き過ぎた恐怖により、治療施設の開設に時間を費やしたのも今回の特色でした。

日赤は、11 月末からハイチ南部のポルタピマンで、コレラ治療センターを開設しました。閉鎖されていた古い病院の建物を改造し、医師・看護師を含む 60 名以上の職員を雇用して、24 時間体制でコレラ患者の治療に対応しました。首都から遠く離れた過疎地であるため、設置当初はコレラ治療経験がある医師・看護師の確保に苦慮し、スタッフを首都でスカウトし南部に送り込んで、必要な人員を確保しました。



(首都ポルトープランスで状況説明を受ける日赤初動班)



(治療センターが完成する前から、コレラ患者が来院する)

またポルタピマン以外にも、首都にある国立刑務所に医師・看護師を派遣し、赤十字国際委員会のコレラ対応を支援しました。体制が整うまでの4日間で、94名のコレラ感染が疑われる収容者への治療を行いました。

さらにカナダ赤十字社が運営していた治療センターにも看護師・薬剤師・事務職員などを派遣して診療活動を支援し、派遣期間を通じて2,600名以上のコレラ患者に対応しました。

今回の大流行は終息しても、今後ハイチでは定期的にコレラが流行すると考えられています。赤十字の支援が終了した後も、コレラ患者が適切な治療を受けることができるように、現地保健省への支援やハイチ赤十字社ボランティアへの指導に主眼をおいて活動を行いました。